

キャラクター名
志道 光司

プレイヤー名

シンドローム	モルフェウス ハヌマーン		ワークス	UGNエージェントA	カヴァー	配達員
	オプション		年齢	20	性別	男
覚醒	素体	衝動	闘争		初期侵食率	65 %
出自	親の理解		経験	力の暴走	邂逅	保護者

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	31
肉体	2	1	2			5	行動値	7
感覚	3	0	0			3	(非装備時)	7
精神	1	0	0			1	戦闘移動	12
社会	2	0	1			3	全力移動	24

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	4		射撃			R C	1		交渉		
回避	1		知覚			意志			調達	2	
運転：二輪	2		芸術：			知識：			情報：UGN	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
木刀	白兵	5r+3	2	3		

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
アーマークリエイト	0	5+LV*2			仮面ライダーだ！（直球）

所持品	
バイク	

合計装甲： 0 合計回避： 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイムス	消費
両親（父親）	P 尊敬	N 嫌気		
友人（同僚）	P 友情	N 不安		
霧谷雄吾	P 信頼	N 恐怖		
PC3（林丞承/林然二）	P 好奇心	N 脅威		
PC5（エル）	P 友情	N 嫌悪		
PC2（明智白鯨）	P 感服	N 憤懣		
切り裂きジャック	P 純愛	N 嫌気		

最大財産P: 10 残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果： 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果： コスト分のHPで復活								
コンセントレイト	2	2	メジャー					
効果： 組み合わせた判定のC値を-LV（下限7）								
アーマークリエイト	2	2	マイナー	至近	自身	自動		
効果： 装甲値:[5+LV*2]の防具を作成して装備する								
ペネレイト	1	3	メジャー	武器		対決		
効果： 対象の装甲値を無視 組み合わせた判定のダイスを-1								
カスタマイズ	2	2	メジャー	武器		対決		
効果： 組み合わせた判定のダイス+LV個								
影走り	1	2	マイナー	至近	自身	自動		
効果： 戦闘移動を行う。1シナリオにLV回								
	★							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

「だってほら、オレももう実質一人前ってとこじゃないか。イケますって、多分」

良くも悪くも楽観的な若者。伊達眼鏡と軽いスーツを着用しており、髪は茶を軸に黒のメッシュが入っている。簡単に言うと漫画「魔王」の蟬。新米エージェントであり、これが初仕事である……ということを加味して、N市に入る彼はもう内心ワクワクだったことだろう。

両親はUGNの構成員であり、レネゲイドウイルスへの知識と理解があった。両親は人の好い性格で、組織へ貢献しようという意識が強かった。実験でもなんでも、出来る限りの協力をしたという。奉仕癖と言い換えても良い親のあいだに生まれた彼は、知識ある“おとな”に囲まれていた。物心つくころには、あらゆることに協力的な両親と共に色んな場所を飛び回るようになっていた。

丁度高校を卒業するような歳の時期に、彼の元にとある実験への参加要請が下る。実験内容は、有り体に言えば人体実験だった。優秀な素体を見つけ出し、覚醒させる……そんな実験だった。そして、運がいいのか悪いのか。どうやら彼は素養があつたらしい。実験は滞りなく終了——という訳にもいかず、一人の被験者が暴走を開始。それに引き摺られる形で二人、三人と規模を広げていき……遺伝した正義感からか、それを止めに走った彼は負傷してしまう。それで軽いパニックに陥った彼は、必死にその力を使おうとして更に引き摺られる形で暴走。その後のことはよく覚えていないが、どうも何人かに怪我をさせてしまったらしい。

その後、入院兼謹慎の期間に自分の行動を振り返る。あの行動は、きっと間違っていない。誰かに咎められることはあっても、否定はされていない。呆れたような顔をした友人も、見舞いにくる両親や負傷させてしまった彼らも。褒められることはあっても、怒鳴られることはなかった。多分、こういう使い方が正しいんだろうな。